

井戸端だより

もくじ

1月総会報告 1
2月例会報告 3
3月例会報告 5
子どもが真ん中の幼稚園 7
温かいふれ合い 10
雑感 11
愛媛新聞掲載文 15
お知らせ 15

会員のKさんから本をいただいた。愛媛新聞や所属グループに投稿した114編からなる随筆集。還暦・古希・喜寿の祝いの記念にとその都度自費出版した3冊目の本。一気に読ませていただいた。家族がお互いを思い合う心根にはジーンとくる。私の何倍もの体験をし、日常感じたことをユーモアたっぷりに、ちょっと辛口に、さらっと書いているのがいい。いやそう書けるKさんをますます尊敬し少しでもあやかりたいと思った。

お読みになりたい方はお声掛けください。

(S. K)

1月総会報告

1月7日（日）10:00～林宅で2010年度総会を行いました。参加者は7名でした。昨年度活動報告、昨年度会計報告、今年度活動計画など話しあいました。

昨年度は砥部七折れの梅まつり、有馬朗人氏の子規塾参加、楠先生に案内していただいたの食場の多種多様な椿の庭、下伊台の西法寺の有名な薄墨桜、東野の旧松山藩主久松邸あとの原種の椿などの観賞、インドネシア人主婦の出会い塾、一草庵、庚申庵見学、深く記憶に刻み込まれた中島行き、日ごろ市行政に対して感じていることを持ち寄っての夜の座談会など多彩な活動ができました。楠先生を囲んでの重信川観察会は先生の奥様のご病気で実施できませんでしたが、今後何か別な方法で（例えば蝶カレンダーの作成など）活動ができればと思います。会計報告は下の方をご覧ください。出会い塾の講師インドネシア人主婦リスさんにお渡しした講師料は、そのまま会にカンパとして戻ってきてしまいました。リスさんとはこれからも一緒に何かできればと思います。

今年度の活動としては、活動会員の一人が、お宅を新築、第2子出産ということで、環境に配慮したというお宅の拝見と出産祝いにうかがおうということになり、さっそく2月のご都合を伺うことになりました。3月は西条の古いお雛様を見に行くことになりました。

総会の途中で、昨年未発行の会報でもお知らせした、現在東京在住の我が仲間ヒラさんが、お嬢さんの成人式参加に付添ったため何と和服姿で現れました。とてもよく似合っていました。そこで参加者全員と一緒に記念撮影ということに相成りました。そのままいてくれるのかと思いきや、東温市に多くの友達、知人を持つヒラさんは引っ張りだこでまたほかの人に会うために出かけてしまいました。総会の後、新年会は持ち寄りパーティーでしたが、ここには会員以外のヒラさんのお友達も参加して大いににぎわいました。ヒラさんのおかげで、知人の輪が一度に広がりました。もちろん、ヒラさんはその後再び現れてくれたので、時間の許す人は夕方まで留まり旧交を温めました。

(T・H)

くらしの学習会会計報告（2009.1～12月）

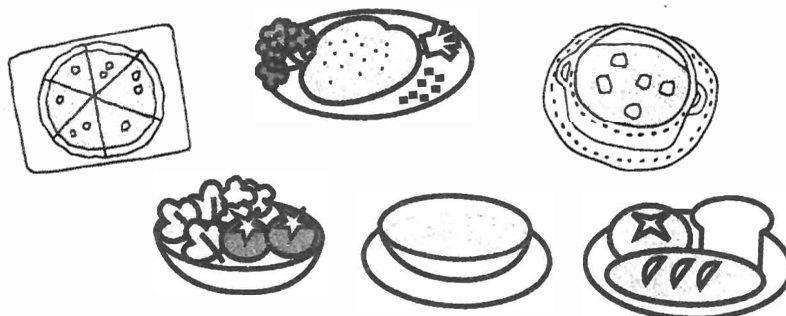
収入の部（円）

会費	35000
カンパ	6400
利子	17
前年度繰越金	<u>99991</u>
収入合計	141408

支出の部（円）

切手代	13860
用紙代	1592
封筒	258
蝶の本寄付	2520
講師謝礼	2000
写真	95
講師手土産	2100
駐車料金	950
フェリー代	10440
ガソリン代	<u>1210</u>
支出合計	35025

141408-35025=106383(次年度繰越金)



2月例会報告

2月23日（火）井戸端便り68号「二度目のお産」を投稿して下さったSさんのお宅をメンバー7名で訪問しました。Sさんのご主人こだわりのエコ住宅を拝見し、T君や誕生した坊やにも会えて楽しい時間を過ごしました。

11時出発。お宅訪問の前に愛媛県産にこだわったランチは皆初めてのお店だったのですが（チェーン店には行ったことありましたが）とても美味しく大満足。11時30分頃入店したのですが、すでに多くの席が埋まっていたので出店した12時30分すぎ頃には超満員。不景気など何処吹く風といった感じでした。

この日、天気も良く気温が20度近くまで上昇し汗ばむほどでした。Sさんのお宅には約束の時間より早く着き過ぎたので、近くを散策することに。ご近所には、以前、主人には出会い塾で（1997年5月にインカの遺跡を旅したお話を聞かせていただきました）奥様にも（1994年2月に合併浄化槽のお話を聞かせていただきました）お世話になったNさんのお宅があり、突然ではありませんでしたが、ご挨拶だけでもとお声を掛けたにもかかわらず、奥様は不在でしたが快くお宅に招き入れていただきました。木材をふんだんに使い吹き抜けのリビングには薪ストーブ、一枚板のテーブル、シンプルで暖かな雰囲気のお宅はとても素敵でした。

猫たちに迎えられSさん宅へ。玄関にチャイムではなく昔懐かしいハンドベルが置いてありました。玄関から自然光をふんだんに取り込み、自然木の（使われている杉・松・檜の80%は愛媛県産材）自然な白さによってとても明るく感じます。ダイナミックな木組みの吹き抜け、ほとんど仕切りのない伸びやかな一階スペース、二階の廊下からは一階が見渡せ、その足元には本が収納してあります。私にとって初めて目にする空間です。

【自然の力を利用して、快適な空間を生み出す『OMソーラーの家』】

お借りしたOMソーラー協会の資料によると、冬場は太陽の熱で温められた空気を立ち下がりダクトで床下に運び→床下空気層にある蓄熱コンクリートを温め（床が温まる）→蓄熱した残りの空気はゆっくり床吹き出し口から室内へ流れ出す（室内が温まる）ことで洗面所やトイレも家全体が暖かい。留守中でも日がな一日ずっと温めていても太陽エネルギーだから光熱費の心配は無用です。夏場は冬に床下に送り込んでいた熱を外に排気し、屋根にこ

もる熱を除去し天井面の断熱を高めることによって、屋根面からの輻射熱を遮り、通風で涼を得ます。この熱の循環によって「春や秋のような、ホドのいい室内気候」が生まれる。そのためには、家の温環境のベース（基礎）をかたちづくる①集熱②蓄熱③断熱・気密の三要素を満たした建物である必要がある。リビングには薪ストーブが設置されていて煙突の熱も利用し暖かさをプラス。市内よりは高地にあり寒いのでしょうか、ご近所でも煙突のあるお宅が多く見られました。二重ガラスサッシで断熱、化学物質の心配のない快適なお宅で、五か月の坊やKちゃんもスクスク育っています。

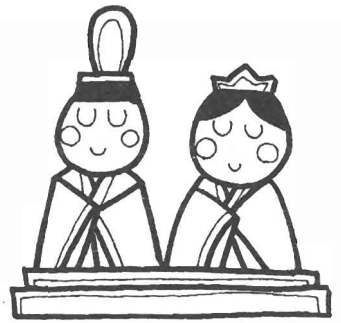
ご主人が出張の間、群馬からお友達が生活の手助けに来られていて、いいお友達に恵まれて幸せだなあと感じました。お兄ちゃんを幼稚園までお迎えに行ってくれ、4月から小学生になるT君と約三年振りの対面。お兄ちゃんブリもすっかり板に付きジャニーズ系の男子に成長。最初恥ずかしがっていましたが、リビングに設置されている登り棒をアッという間に登り、二階の廊下の隅っこにチョココンと座りサッと滑り降りて私たちを驚かせます。幼稚園の事・好きな事などしっかりとした言葉でいろいろ話してくれました。

こだわりのお宅訪問を重視しなければならなかったのですが、子供達の可愛さと久し振りに会うSさんとの四方山話に楽しい一時をすごし、お宅を後にしました。

A. M



3月例会報告



西条市愛媛民芸館と西条市立西条郷土博物館

日時 3月2日午前9時30分出発。 午後2時帰宅。
参加人数 5名
目的 色々なお雛様を見る。

好天に恵まれた日になりました。この時期に毎年、お雛様の展示企画がある愛媛民芸館の古い時代のお雛様や様々な種類のお雛様を見学しました。展示のある愛媛民芸館は、昭和42年に、東予民芸館として開館され、10年後に、愛媛民芸館と改称されました。

民芸という言葉の由来を調べると、大正15年頃、当時は高価な観賞用の工芸品にこそ価値があるという時代でしたが、柳宗悦らは、名もなき職人の手から生み出された日常の生活道具のことを民芸(民衆的工芸)と名付け、華美な装飾を施した観賞用の高価な美術品に負けない美しさがあると唱え、美は生活の中にあると語りました。手仕事の美しさを生活に取り入れ、心豊かな生活を実践することを目的とした民芸運動の始まりです。愛媛民芸館は、全国に33協会がある内のひとつであり、四国では唯一となります。

二階に展示されたお雛様を見て、特別高価なお雛様という印象ではなく、貝殻や紙を使ったお雛さまの展示があり、民芸館という名前の由来からの展示物だということが理解できました。家庭に飾るようなお雛様もあり、お雛様とお内裏様を飾る位置が地域によって異なることもわかりました。ただ、調べると、単に東と西ということではなく、京都の古いお雛様の飾り方が、一般的な関東式(向かって左がお内裏様)と同じ飾り方でしたので、単に東と西で異なるとか、これが正しい飾り方だとは言えないと思いました。お雛様のお顔は、目が細い京顔と関東のお雛様の現代風なものとの違いの話題も出ました。

残念だったのは、野田天神雛が飾られていたのですが、松山市という表示でした。職員の方が松山でなく東温市の野田地区だということをご存じじゃないのだと思い伺いましたが、もっと残念な答えが返ってきました。松山といっても、少し前まで、重信町だったところですよ。松山地域という大きなくりで表示していますという正当なお返事でした。ですが、ここで、ああ

そうですか、と答えることが残念で、野田は東温市ですよねと言いました。再訪時に、野田天神雛が東温市として表示されていればいいと期待します。

一階に下りると、砥部焼の素晴らしいものがありました。白地にブルーが砥部焼の定番ですが、そこには、あまり見たことのない色使いの作品がありました。とても、きれいでした。砥部焼が、最近、パリに作品を売り出したと聞きましたが、ここの色合いのものだと、もっと、パリっ子にも好まれるのになあと素人ながら感じられました。

民芸館の隣に、郷土博物館がありました。まあ、ついでに、と思って入館しましたが、ここで、秋山真之の自筆の書を見ました。友人の鈴木秀次に贈ったものだそうです。迫力のある書でした。彼の書はあまり残っているものがなく、大変貴重なものだと聞きました。

また、坂本竜馬のいろは丸事件の紀州藩側の責任者だった三浦安（みうら やすし）は、西条出身だということがわかりました。西条市は江戸時代に徳川家ゆかりの紀州藩の支藩となった経緯があり、紀州藩に取りたてられていたようです。三浦はいろは丸事件の処理で、海援隊代表の竜馬と交渉した結果、海援隊の嘘を見抜けず、多額の賠償金を支払わせられた史実があります。後に、竜馬の暗殺は、紀州藩が企てたとされ、三浦は海援隊士に狙われ、天満屋事件で顔面を負傷しますが、新撰組の護衛により、命にかかわることにはなりません。戊辰戦争では、捕縛されますが、のちに、釈放されて明治政府に出仕し、第13代東京都知事、宮中顧問官を歴任し、明治43年に死去。幕末を生き抜いた彼は81歳まで日本の国の変遷をみました。

若くして殺された竜馬と天寿まで生き抜いた三浦。同じ時代を生きるはずだった二人。三浦安が、竜馬暗殺の首謀者だったのかどうか気になるところです。

例会の当初の目的は、民芸館のお雛様を見ることでしたが、郷土博物館にも、貴重な資料が色々ありました。NHKで放送中の坂本竜馬に関係する三浦安については、全く知りませんでしたし、数少ない秋山真之の自筆書を見たことも貴重な体験でした。

今後の大河ドラマで、いろは丸事件や三浦安（休太郎）が、どういう描かれ方をするのか、とても楽しみです。 (M T)

子どもが真ん中の幼稚園

先日、息子が3年7ヶ月の幼稚園生活を終え、卒園式を迎えました。好きな歌をたくさん歌って、年中や年少の子どもたちや先生方からも歌で送られた式でした。

思い返せば、いろんなことがありました。行きたくないと泣いたこともありました。でも、いつも子どもが真ん中にいると感じられた園生活でした。

息子は、不定期の仕事を持つ私の暮らしに合わせて、1歳8ヶ月の頃から保育園の一時預かりに週2～3日通い始めました。そして1年経った頃、行きたくないと泣いて抵抗するようになりました。

泣く理由に心当たりはありました。どうしたものかと悩んでいた、ちょうどその頃、3歳の春から入園するつもりで見学に行ったのが今の幼稚園でした。

見学の時の忘れられない出来事があります。息子が、近くにあった下駄箱に登り、「どうだ、こんな悪いことしてるぞ。さあ、叱るんだろう」という顔で、案内してくださっていた先生の顔を見たのです。初めて見る挑戦的な表情にドキリとしました。ところが先生は、「高いところに登れて、すごいね～」を笑顔で応じてくださったのです。息子の表情はぱあっと明るくなりました。

きっと保育園では叱られていたのでしょう。テーブルでも、電車の手すりでも、登れるものにはなんでも登る息子です。それをとめられて、彼の中の「自然」が育つ方向を見失い、泣いていたに違いありません。翌春に入園する予定を変更して、さっそく翌月から満三歳児のクラスに入園することに決めました。

もちろん、入園の決め手になったのはそれだけではありません。制服がないこと、毎日お弁当であることも大きな理由でした。特に、洋服を選ぶことは自分をわかるための第一歩という思いが私にはありま

したし、何よりも、体の動かし方を学ぶ幼児期に制服は望ましくないと感じていましたから、体操服も含め、決められたものがなかったのはうれしいことでした。

そうして急に始まった幼稚園生活でしたが、その後も子どもが真ん中ということを実感する場面がたくさんありました。

例えば、足もと。園庭では、靴をはいている子がいます。サンダル履きの子がいます。草履の子もいます。裸足の子もいます。室内では、上履きをはいている子がいます。靴下の子がいます。やはり裸足の子もいます。好きなようにいて良いのです。

絵も自由です。描きたい子は描き、描きたくない子は違う遊びをしていていいのです。描くテーマもありません。母の日のお母さんの顔とか、節分の鬼とか、そんなものはありません。描きたいものを自由に描くだけです。お陰で、何を描いたのか、どちらが上かもわからない絵ばかり・・・ 時には本人も忘れていきます。

運動会はありますが、練習はありません。秋になると、毎日が運動会になるのです。「今日は運動会やった」「今日も運動会やったんよ」というわけです。毎日、運動会遊び(?)をしているうちに、本当の運動会(園では「おうちの人が来る運動会」と呼ばれています)ができるようになります。そして、決められた体操服がないのですから、みんな普段着です。スカートの女の子もいます。かわいいワンピースもオッケーです。

ところで、年長になると運動会でリレーをします。全員参加です。息子の時は4チームでした。でも、最初から4チームだったわけではありません。毎日が運動会になると、「去年の大きい組さんはリレーしとったよね」「はちまきして、バトン使とったね」と話し始めるようです。「それじゃあ、やってみよう」ということで、子どもたちはハチマキを巻いて走ります。好きな子とチームを作ったり、一人で何周も

走ったり。何度か走っているうちに、各チームの人数を同じにしなくちゃ不公平だ、一人では疲れてしまうと気づきます。するとようやく子どもたちは、「各チームを同じ人数にする」というリレーのルールを見つけて、本来あるべき姿のリレーになるというわけです。

みんなが一所懸命考えて、あれこれとやりとりしながらルールを見つけてゆく様子を思うと、なんと頼りになる子どもたちかとうれしくなります。このような機会を得られるのは、子どもたちの最も近くにいる先生が、「リレーは人数を合わせて」と言わずに見守ってくださるお陰です。簡単なことと思われるかもしれませんが、でも、モノや情報があふれる今の世の中であって、子どもが一から考え、それなりの「解答」を見つけられる機会はそう多くはないのです。

こんな幼稚園生活を過ごした息子は、子どもという時代をしっかりと歩めたように感じています。子どもたち一人ひとりが体の中の「自然」に要求に応じて過ごし、自分らしさを育み、お互いの違いも認め合って過ごしました。成長に応じた「発見」の機会も保証され、自分ってすごい、お友だちもすごいという気持ちを持つこともできたようです。

さて、4月からは小学校。どうなりますことか。まずは靴下と上履きに慣れることからスタートです・・・(T.S)



温かいふれ合い

ストレス解消に週一回温泉に行っている。

その日も、一人で体を洗っていると、隣に座っていた私よりも若い方が、話しかけてきた。

「奥さん若い頃、美人だったでしょう。」え、体はデブで顔はシワにシミ、どこが美人よ、と思ったが、ちょっとニコニコ、「背中流してあげよう」と自分のタオルに蜂蜜石けんをつけてごしごしこすってくれた。

「ありがとうございます。」と言うと、タオルを温めて背中と肩を指圧迄して下さった。不思議なご縁と思って、「お流ししましょう」というと、「私は毎日来ているのでいいよ」と言われ、今迄の人生を話してくれた。ご主人がお酒が好きで女遊びをして若い頃は苦労したけど、今は私だけを頼りに生きているので幸せな毎日よ。と。

それに比べ、私は主人の病状を話し介護に大変な毎日よ、と不平不満を聞いてもらったが、人の道、谷あり山ありだと思った。

今の世の中、親が子を子が親を殺すこともある信じられない家族や隣人。私の温泉での出会いは、人と人の触れ合いの大切さを感じた出来事だった。

私達の幼い頃は、家に風呂がなく銭湯に親子でよく行っていたことを思い出す。背中流しや子供の躰、親達の料理や毛糸編の話など当り前で、本当に助け合いのある温かい世の中だった。

温泉での温かい触れ合いの帰り道、「昔美人だったでしょ」の言葉は、人を褒める事の大切さを学んだ。今は髪も白く歯もなくても若い頃を思い出せば、誰もが、元気でよく働き、人に役立つ事をいっぱいして来たはず。

今の弱った姿や醜い顔を見て、落ち込んだり悲しんだりするよりは、若い頃を思い出して笑顔になる事が、明るく老いる日々になるだろうと思う一日だった。

孫にも夫にも、良い点を褒め、一日一日を楽しく生活したいものである。

(Sa. K)

雑感

風の強い、気温の変化が大きな日々が続いています。初夏を思わせる様な陽気に汗ばんだかと思うと、時ならぬ真冬のような春の嵐に震え上ったりしています。日本の四季の移ろいがおかしくなっています。そんな中、3月14日、松山市でソメイヨシノの開花が発表され、21日には高知で満開になりました。松山では統計を取り始めた1953年以降、最も早い開花だそうです。私が子供の頃、桜は入学式の花でした。いつの間にか卒業式の花になりつつあるようです。

大きく気候が変動していることを実感する昨今ですが、山は暦通りに眠りから覚め、笑い始めています。人間の勝手な振る舞いを赦す忍耐強さを有難いと思う一方いつまで耐えてくれるのかしら？と不安をも覚えます。

今年国連の生物多様性年に当たり、10月には生物多様性条約の第10回締約国会議(COP10)が名古屋で開催されます。恥ずかしいことですが少し前までの私は絶滅する生物がいることにそれほど関心を持ってはいませんでした。学習会の仲間と話しているうちに、より多くの生物が存在することで私たち人間も存続できるのだと、少しずつ思えるようになってきました。そんな時、我が家に隣接する畑を借りて野菜作りのまねごとをするようになると、土を耕していると出てくる、あまり歓迎できない様々な虫たち。それを目ざとく見つけて飛んでくる可愛い鳥たち。田に水が入ると一斉に合唱を始める蛙たち。それを狙う蛇。そんな命の営みを目の当たりにしているとどれ一つ欠けても私たちを取り巻く自然は成り立たないのだということを実感できるようになりました。

地球が誕生した太古から現在に至るまで、数知れない生物が存在したからこそ豊かな地球に成熟し、私たちが豊穡の恵みを享受できているのだと思います。私たちはそのことを忘れがちです。人間の都合の為には何をしても良い、自然を制御できると思いあがっているように思えます。自然界には弱肉強食という厳しい掟が厳然として存在します。食物連鎖の頂点にあると思込んでいる人間は何をしても許されると考えているかの様です。でもそれは錯覚にすぎないのでしょうか。頂点にあるからこそ私たちの存在は脆く、支えてくれる生き物達が欠けると私たちの存在は危うくなってしまおうのだと思うのです。

環境保護のシンクタンク、日本生態系協会は個々の開発に応じて判定役となる生き物を定め「ハビタット評価手続き(HEP)」という手法を使い、その土地が野生生物にとってどの位棲み心地が良いかを数値化して評価しています。農業でも農薬や化学肥料を減らした環境配慮型農業の効果を判断するため農業環境技術研究所が'08年度から生き物を指標にした新しい評価方法を、'12年度完成を目指し開発しています。数値化することは、公平、公正に評価するために必要であり正しいことだとは思いますが、人間が想定できることは自然の営みの中のごく一部であることを忘れてはならないと思うのです。

絶滅を防ぐため保護した結果、人の手が入ることで、生き物が自然の中で繋がって築いてきたバランスが崩れ、生物の多様性が失われることを心配する研究者もいます。

3月13日から25日までカタールのドーハで開かれているワシントン条約（野生動植物の国際取引を規制）の第15回締約国会議は18日午後、モナコが提案した、大西洋・地中海クロマグロを付属書Ⅰ（絶滅のおそれの高い種の商業取引禁止）に掲載する案を、第一委員会で否決しました。3月7日、ハリウッドで開かれた米アカデミー賞の授賞式で、和歌山県太地町のイルカ漁を残酷な部分だけを隠し撮りしたともいわれる「ザ・コーブ」が長編ドキュメンタリー賞を受賞したことやシーシェパードによる日本の調査捕鯨船への執拗な攻撃が続いたこともあり、また、モナコ提案に続いてサメ類と宝石サンゴを付属書Ⅱ（現在絶滅のおそれはないが商取引を厳重に管理）に掲載する案も提出されていることもあって、締約国会議が始まる前から、マグロが、フカヒレが食卓から消える！ドーハの悲劇（1994年サッカーのアメリカワールドカップに向けて、1993年ドーハで行われたアジア地区最終予選で日本がロスタイムにイラクに敗退）の再来！などと報道の過熱ぶりが続きました。一応、第一委員会では否決されましたが、24日から始まる全体会で委員会議決は覆る可能性もあります。日本は国際取引を規制するワシントン条約の枠組みではなく、漁獲規制の国際枠組みの中の“大西洋まぐろ類保存国際委員会-ICCAT”で資源保護の国際協調を続けるべきだと主張しています。まぐろ類の個体数は減少していないとする人もいます。しかし、日本は世界のクロマグロの80%近くを消費していると言われていいます。形振り構わず買い叩き、買い漁る様は尋常ではありません。今回は反対票を投じた日本や中国へのクロマグロ輸出国（途上国が多い）も、将来、嘗てエビの養殖場を作るためマングローブ林を伐採した結果、生物の多様性が失われ自然が根こそぎ破壊されてしまった東南アジアの人たちの様な失望と怒りを持つことになるかもしれません。

クロマグロの安定供給と保護を両立させる為には畜養が不可欠であるとして、クロマグロの完全養殖が脚光を浴びています。マグロは非常に神経質で食べ物の好き嫌いが激しく食べ残しが多いという番組を見たことがあります。また、1kgのマグロを育てるのに25kgもの小魚が必要とも言われています。安定した産卵を促すためのホルモン剤の投与や、感染症防止のための抗生物質も投与されます。勿論、大量の排泄物も出ます。その排泄物から抗生物質耐性細菌が発生しその海域の生態系のみならず、その海域の海産物を食べる人間にも影響を与えると言う専門家もいます。

どうして、そんなにマグロに固執するのでしょうか？周りを海に囲まれた日本には他にまだまだ美味しい魚が沢山あります。最近では外食、中食が増えてきて本来の家庭の味が失われつつあることが原因かもしれません。

私が小学生だった昭和30年代は栄養補給が目的だった給食ですが、最近は学校給食が食文化の伝承までも担わなければならなくなってしまっている様です。しかし、現実には予算不足から菓子パンと麺類、プリン、牛乳などという栄養のバランスが取れていない上に、献立としても成立していないようなメニューも多いようです。ならば子ども手当・高校無償化・農家の戸別補償等の予算を合わせて、給食だけでなくその他別途徴収する副教材、修学旅行、各家庭で揃える学用品、制服など学校にかかわる総てを無償化し、給食の食材の総てを地元産、少なくとも

も国産にしてはどうでしょう？そして給食はそれぞれの学校で作るのです。食材の下ごしらえをしている所の周りはガラス張りにして子供たちが休み時間に自由に覗いて「何をしているの？」「それは何？」などと会話することが出来れば食に対する興味も自然に湧いてくるでしょう。食べ残しについても子供たちと一緒に考えれば、40%を切っているともいわれる食料自給率の低い日本であるにも拘らず、世界の食糧援助の総量の倍近くの食べ物が捨てられているという異常な現象も改善するかもしれません。子供たちにかかわる物を作っている、育てている、獲っていると思うこと、そして安定した需要があれば農家も畜産家も漁業も商店も工場も元気になることが出来る様な気がします。

大人たちが自分の仕事を通じて世の中総ての子供たちに関心を持つようになれば子供を虐待してしまう、孤立感を募らせ閉塞感に押しつぶされそうな希望の持てない若い親たちをも支えるような繋がりのある社会が再生できるかもしれません。

玄海原発に次いで国内2例目となるプルサーマル発電の試運転が愛媛県の伊方原発3号機で始まりしました。MOX燃料が装填され3月30日から営業運転が開始される予定です。

発電時にCO₂を排出しないことから“エコ”の切り札とされている原発ですが本当にそうなのでしょう？発電時以外に排出するCO₂は考慮されていません。総合的に考えるとCO₂は削減されていないとの説もあります。

何より、ひとたび事故が起こるとその惨状は1986年に起きたチェルノブイリの事故が如実に物語っています。今も厚いコンクリートの石棺で覆われたままです。

事故が起きなくても、いつの日か必ず老朽化する原発を安全に取り壊すための完全な技術は残念ながら現在の時点では確立されていないのです。そして、解体出来たとしても、その解体物も核廃棄物も最終的な処分場は国内の何処にも無いのです。捨てる場所も決めないまま始めてしまった原発事業。言葉を失います。

1970年代に建造された原発はそろそろ40年を迎えます。当初、運転可能期間を40年と見込んでいた各電力会社は運転期間を延長する方向に方針を変更する傾向がみられるようです。老朽化すると経年劣化による様々な事故が起こりやすくなることは容易に想像できます。1994年運転開始した伊方原発3号機はまだ若いとは言えますが、1号機は1977年運転開始の立派なお年寄りです。

そもそも伊方原発はウラン燃料を使用するように設計されています。プルサーマル発電に使うMOX燃料は想定されていないのです。MOX燃料は、原発で使われた使用済みのウラン燃料から核物質のプルトニウムを取り出し、新たなウランと混ぜ合わせて作られます。MOX燃料はウラン燃料より核分裂のコントロールが難しく、毒性も強いと言われています。使用済み核燃料をリサイクルすれば資源を節約でき廃棄物を減らせるとして始まった計画です。しかし国が青森県六ヶ所村に計画中の使用済み核燃料のリサイクル工場や、MOX燃料工場の完成は遅れています。そのため、MOX燃料は遠くフランスから運ばれてきます。輸送中に事故が起きることも考えられます。

また、名古屋大や広島工大のグループが静岡から宮崎沖の海底に撓曲崖^{とうきよくがい}という撓^{たが}んだ崖の様な構造が、沿岸から 20~40km のところに南海トラフの陸側に並行して 400km 以上続いていることを確認しました。撓曲崖の下には活断層の存在が有るものと思われています。これまで報告された多くの海底活断層より陸側にあり、東南海、南海地震の際この推定活断層も動く、局地的な海底地滑りによる津波などをもたらす恐れがあると言います。先日観た NHK の番組で、海岸近くの堅牢な建造物や舗装された道路が津波の通路となり、津波はより複雑に進み破壊力を増大させると、分析していました。津波の被害は海岸から 5 km も離れた所にまでも達するとさえ言われています。

今年に入ってから中南米で大きな地震が相次ぎました。1月12日のハイチ地震・M7.0。2月27日のチリ地震・モーメントマグニチュード Mw8.8(M8.0 超の場合使われることが多い単位)。双方とも甚大な被害が出ました。チリ地震では日本でも大津波警報が出されました。

最近、大きな自然災害が多い様な気がします。心配です。

全ての危険を承知の上で、それでも安全だと確信して知事はプルサーマル計画に同意されたのでしょうか？愚かな決断をした知事として後世に名前が残るような事故が起こらないことを祈るばかりです。

即刻、全ての原発を石棺で覆ってしまいたいとさえ思います。全ての原発の運転を停止した場合、いったいどの時代の生活にまで戻れば温室効果ガスを 1990 年比 25%削減できるのでしょうか。どなたか教えて下さい。25%削減と言われても具体的な姿が想像できないのです。

あの暑い夏の盛りに政権交代し与党になった民主党。内閣支持率が当初の半分以下の 30%に下落しました。政権をとって半年。外交問題や景気浮揚は思い通りにはいかないこともあるかもしれませんが、しかし、総選挙当時の明言「秘書が逮捕された時はバッジを外す」という自身の決断で即実行できる簡単な約束さえ守られていないこと、税収を上回る借金を投入した予算の使途の優先順位への疑問、が不信を突き付けられている原因なのだと思います。

1月11日、「アンネの日記」のミーブさんが100歳で亡くなりました。ミーブさんはアンネの父親オットー・フランクさんの秘書で、アンネたちの隠れ家生活を支えた人です。

小学校の高学年の頃、長期入院した母を見舞った帰り、映画「アンネの日記」を観て以来数年間「アンネの日記」は私にとって手放せない愛読書でした。アンネになりきって母親や姉のマーゴットに憤慨したりしたものです。それが、時を経て娘たちと一緒に再び読んだ時、アンネの言動を、時として、我儘だと感じる私がありました。自分自身の感じ方が立場によって大きく変わったことに驚きました。私が誰かに対して感じる評価は、相手を変化しなくても私自身の変化によって変わることもあるということを知って教えてくれた「アンネの日記」でした。

一喜一憂したバンクーバー冬季オリンピックが遠いことのように思える中、沢山の感動をもたらしたバンクーバー冬季パラリンピックも閉会しました。息苦しいニュースが多い日々、爽やかな風を贈ってくれた選手の一人一人に感謝!!です。(K.O.)

消防職員数 増員が必要

理事者

△東温市▽(9日・定例) 渡部伸二、玉乃井進、酒井克雄(以上無所属) 丸山稔(公明) 伊藤隆志、片山益男、相原真知子(以上無所属)の7氏が一般質問。酒井氏は市の雇用対策の成果をたじた。理事者は国の緊急雇用創出事業とふるさと雇用再生事業を合わせ、2008～09年度で延べ50人を雇用したと説明し、10年度は新たに計16人を雇用するとした。

増員が必要」との考えを示した。相原氏は市内の義務教育施設の耐震化について、残る20棟の改修計画の見直しを質問した。高須賀功市長は3月補正予算に計上した述べた。

小中学校計7棟の改築事業が完了すると、耐震化率は75・5%になる。残る13棟は概算総事業費を千数億円と見込み、実施設計を前倒して実施する方向」と述べた。

職員倫理規定 制定を検討

△東温市▽(10日・定例) 細川秀明(無所属) 近藤千枝美(公明) 大西勉、山内孝二、佐伯正夫(以上無所属) 佐伯強(共産) 安井浩二(無所属) の7氏が一般質問。

細川、大西、安井各氏は、1月に20代男性職員が万引したとし、近藤氏は父子家庭の支援状況を質問。理事

て懲戒免職処分になったことなどを受け、職員の綱紀粛正の取り組みをたじた。理事者は「2月にモラルなどに関する研修を実施し、倫理規定の制定を検討中」と述べた。

者は市内の父子家庭は27世帯72人で、同市が県内自治体で唯一実施する父子家庭医療助成事業の対象年齢を18歳から20歳に対象年齢を広げる条例改正案を今議会に提出したと説明した。

山内氏は市の特産品のブランド化や農商工連携事業の展望が甘いと指摘した。理事者は「昨年3月から販売するぶどうは市内3ブランドで計約1400万円を売り上げ、全国どぶろく大会では出品した一つが優秀賞を受賞した」と成果を強調。農商工連携は今後、麦やみそ、地鶏など特色ある資源を生かしたブランド創設を自指すとした。

愛媛新聞 市議会

4月例会のお知らせ 4月20日(火)

「柄種」で食事のあと 今年度の今後の年間計画などを話し合う

変更の場合は又ご連絡します

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2,000円/年 購読会員 1,000円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956

E-mail: kt-hayashi@nifty.com